



# 心臓財団 季報

No.183

● 財団法人日本心臓財団 ●

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル835区-A

○ Tel 03-3201-0810 ○ Fax 03-3213-3920 ○ e-mail:info@jhf.or.jp ○ http://www.jhf.or.jp/

MAY 10, 2006

## 平成18年度の事業計画を決定

第49回評議員会・第110回理事会にて

3月13日、東京の銀行倶楽部にて第49回評議員会および第110回理事会が開催され、平成18年度事業計画、収支予算について審議し、評議員会において承認され、理事会において可決しました。事業概要は以下のとおりです。

### I. 研究助成事業

#### A. 個別研究助成

1. 第32回日本心臓財団研究奨励の実施  
[奨励額:1件200万円を10件]
2. 第4回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)の実施  
[奨励額:1件100万円を2件]
3. 第4回日本心臓財団動脈硬化Update研究助成の実施  
[助成額:200万円を1件と100万円を2件]
4. 第11回日本心臓財団・ファイザー心血管病研究助成の実施  
[助成額:200万円を4件]
5. 第2回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成の実施  
[助成額:1件100万円を10件]

#### B. 賞関係

1. 第32回日本心臓財団佐藤賞の贈呈
2. 第71回日本循環器学会若年研究者奨励賞への助成
3. 第31回日本心臓財団草野賞の贈呈
4. 第21回日本心臓財団予防賞の贈呈
5. 第2回日本心臓財団小林太刀夫賞の贈呈
6. 第11回日本心電学会学術奨励賞の後援

#### C. 多施設共同研究助成

1. 心筋梗塞後の心血管イベント発生に関する研究
2. J-CAD study(虚血性心疾患疫学調査研究)
3. 低リスク安定労作狭心症に対する薬物療法とインターベンション療法の“長期予後”に関する無作為介入試験
4. 肺塞栓症研究会共同研究
5. 心筋梗塞後のスタチン薬投与による心血管イベント抑制に関する研究(MUSASHI-AMI)
6. 冠動脈形成術後の心血管イベント抑制に関する研究—スタチンによる脂質低下療法の効果—(MUSASHI-PCI)
7. 特発性心室細動研究(J-IVFS)

8. ウツタイン様式を用いた関東地方院外心停止患者に対する多施設共同研究(SOS-KANTO)
9. 心房細動の薬物療法に関する多施設共同無作為化比較試験(J-RHYTHM)
10. 慢性心不全治療確立のための大規模臨床試験に関する研究(J-CHF)
11. 心室細動・心室頻拍患者におけるアミオダロンと植込み型除細動器の併用効果の検討(NIPPON試験)
12. 北海道心血管研究会 臨床試験1『急性心筋梗塞症例に対するHMG-CoA還元酵素阻害薬の効果に関する多施設共同無作為化比較試験』
13. 高血圧患者におけるプラバスタチンの糖尿病発症抑制作用の研究
14. 日本心臓血管外科手術データベース
15. 名古屋急性心筋梗塞研究—1
16. トリグリセライドに富むリポ蛋白(トリグリセライドリッチリポ蛋白)と心血管病に関する臨床研究
17. 費用対効果からみた拡張期心不全の治療戦略の検討(J-DHF)
18. 慢性心不全患者に対する薬物治療に関する実態調査
19. 冠攣縮性狭心症の治療に関する研究
20. 脳血管疾患・心疾患に伴う血管イベント発症に関する全国実態調査(J-TRACE)
21. アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(AⅡ拮抗薬)で降圧不十分な糖尿病を伴う高血圧症患者に対するカルシウム拮抗薬追加併用群とAⅡ拮抗薬増量群の無作為割付比較試験(ADVANCED-J)
22. 治療中高血圧患者における早期高血圧管理の臓器障害抑制に関する研究
23. インスリン抵抗性改善による心筋梗塞再発予防に関する大規模薬剤介入試験
24. 心不全症例(腎不全症例も検討)におけるアンジオテンシン受容体断薬(ARB)の心臓(腎臓)組織内分泌への効果

- 25. 高齢者高血圧におけるAⅡ受容体拮抗薬増量とカルシウム拮抗薬併用による心血管系イベント抑制効果の比較検討(OSCAR)
- 26. 日本心電学会主催実践的教育セミナー「ガイドラインに準じた不整脈薬物療法」
- 27. 薬剤溶出ステント(Drug Eluting Stent)を用いた冠動脈形成術後の心血管イベント抑制に関する研究—アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬によるイベント抑制効果—(4C)
- 28. スタチンの脂質低下作用がもたらす脆弱プラークの進展抑制効果—IVUS(Virtual HistologyTMによる解析)を用いた検討—
- 29. ピタバスタチンおよびアトルバスタチンの急性冠症候群患者に対するプラーク退縮効果に関する多施設共同臨床試験(JAPAN-ACS)
- 30. 急性冠症候群患者における二次予防効果の検討
- 31. 慢性心不全治療において利尿薬が左室拡張能に及ぼす影響の検討
- 32. アンジオテンシンⅡⅠ型受容体拮抗薬間の有用性の検討
- 33. J-CTO-CONQUEST Trial
- 34. 待機的PCI施行患者におけるアゼルニジピンによる動脈硬化作用の検討—ALPS-J
- 35. J-RHYTHMⅡ Study—高血圧合併発作性心房細動を対象としたアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬とカルシウム拮抗薬の臨床効果に関する多施設共同無作為化比較試験—
- 36. Kumamoto Intervention Conference Study (KICS)

#### D. 留学助成

- 1. 第20回日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成の実施  
[助成額:1件300万円を標準とし、原則として10件]
- 2. 東京海上日動火災保険(株)による海外研究者研修助成の実施  
[助成額:1件最大80万円で総額500万円]
- 3. 第3回日本心臓財団Cardiac Rhythm Management短期海外研修助成の実施  
[助成内容:欧州研修先までの渡航費および滞在費]
- 4. 第2回日本心臓財団・日本心電学会海外留学助成の実施  
[助成額:1件200万円を2件]

## II. 学術活動・会議助成事業

- 1. 第28回美甘レクチャー(日本循環器学会特別招待講演)への助成
- 2. 第28回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会
- 3. 第6回日本NO学会学術集会
- 4. 第10回日本適応医学会学術集会
- 5. ADATARAライブデモンストレーション2006
- 6. 第38回日本動脈硬化学会総会・学術集会
- 7. 第42回日本小児循環器学会総会・学術集会
- 8. 国際心臓血管アカデミー第2回世界会議
- 9. TOPIC 2006
- 10. 第54回日本心臓病学会学術集会
- 11. 第59回日本胸部外科学会定期学術集会
- 12. 第20回日本心臓血管内視鏡学会総会
- 13. 第6回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2006 in 大宮
- 14. 第10回日本心不全学会学術集会
- 15. 第25回日本心臓移植研究会
- 16. 第47回日本脈管学会
- 17. 第2回アジア・太平洋循環器病予防セミナー・第19回日本循環器病予防セミナー
- 18. 第2回日中心血管フォーラム
- 19. 第6回日本心血管カテーテル治療学会学術集会
- 20. 第23回国際心臓研究学会日本部会総会
- 21. 第1回国際心筋症・心不全学会
- 22. 第71回日本循環器学会総会・学術集会

## III. 広報啓発事業

- 1. インターネット「心臓財団のホームページ」関連広報活動
- 2. 日本循環器学会との協力事業
  - 1) 病院掲示用壁新聞「健康ハート」の発行
  - 2) 一般向け情報誌「健康ハート」の発行
  - 3) 市民公開講座の開催
- 3. 予防啓発小冊子の発行
- 4. 「健康ハートの日」活動
  - 1) 8月10日キャンペーン(東京、豊橋、鹿児島)
  - 2) 広報活動 ポスターの製作配布等
- 5. 世界心臓連合(World Heart Federation)加盟団体としての諸活動
  - 1) 世界心臓学会参加
  - 2) 9月24日、世界ハートの日事業
- 6. ヘルシーディナーの会およびヘルシーメニューの会の開催
- 7. 禁煙推進活動
  - 1) たばこと健康問題NGO協議会による世界禁煙デー記念シンポジウムの開催
  - 2) 禁煙推進ネットワークを中心に活動
- 8. 日本心臓財団メディアワークショップの開催
- 9. 予防活動団体への協力
- 10. 日本心臓ベースメーカー友の会事業への協力
- 11. 日本川崎病研究センター事業への協力
- 12. トーアエイヨー(株)によるラジオNIKKEI「心臓財団虚血性心疾患セミナー」
- 13. 月刊医学雑誌「心臓」の発行
- 14. 機関紙「季報」の発行
- 15. 日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成20周年記念講演会の開催

## 日本心臓財団・ファイザー心血管病研究助成対象者決定

当財団では、ファイザー株式会社の協力を得て、循環器学の発展と40歳未満の少壮研究者の育成のため、第10回および第11回心血管病研究助成を実施しました。

第10回の研究テーマは「急性冠症候群の発生機序—臨床・病理・分子生物学的アプローチ—」で、昨年20名の応募者によるポスター発表の中から12件が選考され、本年2月25日、東京・灘尾ホールにおいてその12名による口演発表をもとに4件が選考されました。助成金はそれぞれ200万円です。

今回第11回の研究テーマは「不整脈の治療—臨床～分子生物学的アプローチ—」で28件の応募があり、同日同会場にてポスター発表による自由討議を行い、12件が選考されました。助成金はそれぞれ50万円。さらに来年3月開催予定の研究発表会で、この12件から4件を選考し、それぞれ200万円を助成します。

なお、本研究助成は今回(第11回)をもちまして、終了致しました。長年にわたりご協力いただきましたファイザー株式会社に御礼申し上げます。

### 選考委員(五十音順・敬称略)

小川 聡	慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科学教授
北 徹	京都大学大学院医学研究科循環器内科学教授
斎藤 能彦	奈良県立医科大学第一内科学教授
永井 良三	東京大学大学院医学系研究科循環器内科学教授
野出 孝一	佐賀大学医学部内科学教授
藤原 久義	岐阜大学大学院医学研究科再生医科学循環病態学教授
松崎 益徳	山口大学大学院医学系研究科器官病態内科学教授

### 第10回選考委員(五十音順・敬称略)

小川 久雄	熊本大学大学院医学薬学研究部循環器病態学教授
居石 克夫	九州大学大学院医学研究院病理病態学教授
横山 光宏	神戸大学大学院医学系研究科循環呼吸器病態学教授

### 第11回選考委員(五十音順・敬称略)

井上 博	富山大学医学部第二内科学教授
奥村 謙	弘前大学医学部内科学第二講座教授
児玉 逸雄	名古屋大学環境医学研究所教授

## 第10回 助成対象者

(五十音順・敬称略・助成金額は各200万円・年齢は昨年応募時)

番号	氏名	所属	研究課題
1	大久保宗則 (33歳)	岐阜大学大学院 医学研究科 再生医科学循環病態学	有意狭窄病変におけるリスクファクターと冠動脈組織性状—integrated backscatter intravascular ultrasoundによる検討—
2	海北 幸一 (38歳)	熊本大学大学院 医学薬学研究部 循環器病態学	急性冠症候群の成因における分子生物学的アプローチ
3	竹田 征治 (32歳)	奈良県立医科大学 第1内科	急性心筋梗塞におけるPIGF発現は、末梢血単核球分画の動員を介して慢性期の心機能の改善に寄与する
4	東 智仁 (25歳)	京都大学大学院 医学研究科 循環器内科学	急性冠症候群の引き金である血小板活性化機構に関する基礎研究

## 第11回 助成対象者

(五十音順・敬称略・助成金額は各50万円)

番号	氏名	所属	研究課題
1	朝野 仁裕 (35歳)	大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科	心臓における細胞核クロマチンリモデリングに伴うエピジェネティックな遺伝子発現変化と心筋変性との関わり—催不整脈性右室心筋変性症(ARVC)に対するアプローチ—
2	大木元明義 (36歳)	愛媛大学医学部附属病院 第二内科	肥大型心筋症における心房細動の合併と内皮型—酸化窒素合成酵素(eNOS)遺伝子多型(Glu298Asp)の関連について
3	大矢 俊之 (35歳)	日本大学医学部 循環器内科	頻脈誘発性犬心不全モデルにおける共焦点顕微鏡を用いた単離心筋によるt-tube膜伝導のAPDの変化に関する研究
4	荻ノ沢泰司 (34歳)	横浜労災病院 循環器科	心臓ベising患者における心臓圧受容体反射の検討—VVIモードとDDDモードの比較—
5	関 明子 (35歳)	東京女子医科大学 循環器内科	心筋ギャップジャンクションチャンネルを標的とした新しい不整脈治療法の開発
6	種本 雅之 (39歳)	東北大学医学部附属病院 腎高血圧内分泌科	カリウムチャンネルの機能発現を制御する分子機構の解明
7	中村 一文 (37歳)	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科	心不全に伴う不整脈発生機序の解明—4-Hydroxy-2-nonenalによる活性酸素発生を介した心筋細胞のカルシウム過負荷—
8	林 研至 (36歳)	金沢大学医学部附属病院 検査部	薬物誘発性QT延長症候群の発症を調節するKCR1の役割
9	古嶋 博司 (38歳)	新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器分野	Brugada症候群における右室流出路伝導遅延と臨床的特徴との関係—加算平均心電図と電気生理検査によるリスク階層化
10	牧山 武 (33歳)	京都大学大学院医学研究科 循環器内科	ブルガダ症候群(心臓Naチャンネル病)の分子基盤の解明
11	村越 伸行 (35歳)	茨城西南医療センター病院	HCN4遺伝子による徐脈性不整脈に対する遺伝子治療の開発
12	湯田 聡 (39歳)	札幌医科大学医学部 機器診断部	Strain rate imaging法による高血圧例の左房機能の定量的評価: レニン・アンジオテンシン系抑制薬の影響

### 第31回 日本心臓財団 佐藤賞 山田 芳司 教授が受賞

第70回記念日本循環器学会総会・学術集会にて



日本心臓財団佐藤賞は、当財団の故佐藤喜一郎初代会長を記念して設けられたもので、近年循環器領域で顕著な業績をあげ、今後もこの分野で中心的な役割を果たすことが期待される50歳未満の研究者1名に贈られるものです。日本循環器学会会長を委員長とする選考委員会において選考され、今回は三重大学生命科学研究支援センターヒト機能ゲノミクス部門の山田芳司教授に決定しました。

第70回記念日本循環器学会総会・学術集会(会長:藤原久義岐阜大学大学院医学研究科再生医科学・循環病態学・呼吸病態学・第二内科教授)会期中の3月25日に名古屋国際会議場にて授与式が行われ、当財団の杉本恒明副会長より賞牌ならびに100万円が贈呈されました。研究課題は、「循環器疾患の遺伝因子の解明と遺伝子リスク診断システムの開発」で、同学術集会において受賞記念講演が行われました。

### 第30回 日本心臓財団 草野賞 丸山 啓介 博士が受賞

第30回 日本脳卒中学会総会にて



日本心臓財団草野賞は、当財団の故草野義一初代理事長を記念して設けられたもので、その1年間に脳血管障害に関する学術雑誌に掲載された40歳未満の研究者の論文に対し贈られるものです。今回は東京大学医学部脳神経外科の丸山啓介氏に決定しました。

第31回日本脳卒中学会総会(会長:児玉南海雄福島県立医科大学脳神経外科学教授)会期中の3月19日にパシフィコ横浜にて授与式が行われ、児玉会長より賞牌ならびに50万円が贈呈されました。受賞論文は、「脳動静脈奇形に対する定位放射線治療後の出血リスク」でした。

### 第21回日本心臓財団予防賞 中川 秀昭 教授が受賞

日循協総会にて



日本心臓財団予防賞は、地域社会に密着し、循環器疾患予防に永年貢献もしくは学術研究開発に功績のあった団体あるいは研究者を対象に贈られるものです。今回は金沢医科大学健康増進予防医学の中川秀昭教授が選ばれました。受賞研究は、「職域・地域における循環器疾患の疫学研究」で、職域においては富山県内の製造業従業員の仕事ストレスと循環器疾患発症の関連に関する研究、地域においては富山県旧小矢部保健所管内における脳卒中登録制度の維持管理、石川県小松市の国保ヘルスアップモデル事業での循環器疾患予防における個別健康教育の方策作成を行っています。来る5月20日、日本循環器管理研究協議会総会において授与式が行われ、賞牌ならびに50万円が贈られます。

### 第2回日本心臓財団小林太刀夫賞 協和健康づくり実行委員会が受賞

日循協総会にて

日本心臓財団小林太刀夫賞は、日本循環器管理研究協議会初代理事長の名を冠して設けられたものです。この賞は地域と密着して、循環器病を中心とした生活習慣病予防のために永年貢献し、生活習慣等の改善により疾病管理に実効を挙げた活動、あるいは予防のための創意工夫により将来において疾病管理の実行が期待できる活動を展開中の保健師、看護師、栄養士の個人または団体に贈られます。

第2回は、茨城県筑西市(旧協和町)にて昭和56年度より脳卒中半減対策事業を開始し、26年間の間に食塩摂取量の減少や高血圧者の減少はもとより、脳卒中発症者の4割減少、寝たきり高齢者の減少、医療費の上昇抑制等の成果を得た「協和健康づくり実行委員会」が選ばれました。

第21回日本心臓財団予防賞とともに来る5月20日、日本循環器管理研究協議会総会において授与され、賞牌ならびに50万円が贈られます。

## 平成18年度日本心臓財団研究奨励募集

心臓血管病(心臓病、脳卒中、高血圧、動脈硬化症等)の成因、治療あるいは予防に関する独創的研究に対し行います。本年度(第32回)より奨励金額が1件100万円より200万円に増額されます。

### 1. 研究奨励金および応募資格

わが国に在住し、心臓血管病の基礎、臨床または予防に携わる研究者

#### 1) 第32回日本心臓財団研究奨励

1件200万円を10件。

40歳未満の研究者

(1966年4月1日以降に生まれた者)

#### 2) 第4回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)

1件100万円を2件。

30歳未満の将来性のある若手研究者

(1976年4月1日以降に生まれた者)

### 2. 応募期間

平成18年6月1日～7月15日

## 第4回日本心臓財団動脈硬化Update研究助成募集

「動脈硬化」は、脳卒中、心臓疾患、糖尿病等と関連が深く、高齢化が進む今日、これらの予防、治療はますます重要です。動脈硬化研究の一層の進展と少壮研究者の育成のために、動脈硬化領域における基礎、臨床、疫学に携わる研究者に助成します。

### 1. 研究助成金

200万円を1件と100万円を2件

### 2. 応募資格

1) 年齢：1966年4月1日以降に生まれた者

2) 施設：臨床教室及びそれに準ずる施設

3) ただし、次の事項に該当する者は応募できない。

・同一研究テーマで他の助成を受けた者

・研究発表会(9月2日(土))当日に口演不可能な者

・前年度の助成対象者

4) 海外での業績については応募除外(国内のみ)とする。

5) 原則として日本国内の研究施設に所属する者に限る。

### 3. 応募締切日 平成18年5月31日

## 第2回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成対象者決定

当財団では、ノバルティスファーマ株式会社の協力を得て、循環器領域における分子細胞生物学的研究の進歩に著しい貢献が期待される40歳以下の少壮研究者育成のために、第2回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成を実施いたしました。

本研究助成に39題の応募があり、選考委員10名による書類審査が行われ、3月25日に開催された選考委員会において下記の11名が選考されました。本来、この助成対象人数は10名ですが、選考委員会において討議を重ねても10名に絞ることができず、今回は11名を助成対象といたしました。助成金はそれぞれ100万円です。

また、今回の助成研究には発表報告が予定されております。

### 選考委員(五十音順・敬称略)

伊藤 宏	秋田大学医学部循環器内科学教授
北風 政史	国立循環器病センター心臓血管内科部門部長
倉林 正彦	群馬大学大学院医学系研究科臓器病態内科学教授
小室 一成	千葉大学大学院医学研究科循環器病態内科学教授
斎藤 能彦	奈良県立医科大学第一内科学教授
砂川 賢二	九州大学大学院医学研究科循環器内科学教授
筒井 裕之	北海道大学大学院医学研究科循環器病態内科学教授
永井 良三	東京大学大学院医学系研究科循環器内科教授
室原 豊明	名古屋大学大学院医学系研究科器官制御内科学教授
森下 竜一	大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学教授

## 助成対象者

(五十音順・敬称略)

番号	氏名	所属	研究課題
1	池田 宏二 (36歳)	京都府立医科大学 循環器病態制御学 博士研究員	血管発生・分化・再生に関する新規VEGF受容体結合蛋白の単離同定・機能解析
2	岩永 善高 (39歳)	京都大学大学院医学研究科 循環器内科 産学官連携講師	心不全の発症・進展における肥満の関与：脳-脂肪細胞系からの基礎的検討
3	片野坂友紀 (35歳)	岡山大学大学院医歯薬総合研究科 システム循環生理学 日本学術振興会特別研究員SPD	心不全発症におけるNa <sup>+</sup> /Ca <sup>2+</sup> 交換体の役割 —制御機構の解明と新規治療法開発—
4	絹川真太郎 (36歳)	北海道大学大学院医学研究科 循環器病態内科学 研究支援者	インスリン抵抗性に伴う骨格筋機能および運動能障害における酸化ストレスの役割の解明
5	佐原 真 (33歳)	東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学 大学院生	肺高血圧症の病態生理や分子機序を検討し有効な薬物療法や細胞療法を開発すること
6	三部 篤 (39歳)	国立成育医療センター研究所 薬剤治療研究部実験薬理室 室長	低分子ストレスタンパク質異常により発症する心筋症の病態解明と治療法の開発
7	菅波 孝祥 (36歳)	東京医科歯科大学難治疾患研究所 分子代謝医学分野 助手	動脈硬化における炎症性メディエータとしての遊離脂肪酸の分子機構の解明と医学応用
8	高田 康德 (37歳)	愛媛大学医学部 臨床検査医学糖尿病内科 医員	新規インスリン抵抗性改善薬PPARβ/δ ligandによる抗動脈硬化作用の検討
9	田中 亨 (37歳)	群馬大学大学院医学系研究科 臓器病態内科学 研究生	血管石灰化の転写調節機構の解明
10	寺井 和生 (35歳)	大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 大学院生	虚血性心筋傷害に対する新たな治療ターゲットとして、小胞体ストレス機構へのサイトカインの関与を検討する
11	中岡 良和 (36歳)	国立循環器病センター研究所 循環器形態部 室員	ErbBファミリー/Gabファミリー情報伝達経路の心機能維持における検討

## 海外からの研究者に対する助成

日本心臓財団では循環器疾患の研究分野においてASEAN諸国等の研究者の来日に対し、東京海上日動火災保険(株)による海外研究者研修助成を実施しています。

このたび次の方に助成しました。

### 1. 第70回記念日本循環器学会総会・学術集會に参加発表 20名 各10万円 平成18年3月24日～26日

イラン	Ashkan Mowla氏
タイ	Nipon Chattipakorn氏、Tanat Inchaoen氏、 Krekwit Shinlapawittayatorn氏、 Rattapong Sungnoon氏、Patiparn Toomtong氏
ネパール	Prahlad Karki氏
モンゴル	Tsolmon Unurjargal氏
バングラデッシュ	Abu_TNT Shah氏、Homaira Begum氏、 Gouranga K. Saha氏、Abdullah A. Jamil氏、 Mohammad_A Ali氏、Mohammad_M Hossain氏、 M.S.Rahman Patwary氏
フィリピン	Ronald E. Cuyco氏、Francis Ruel B Geronimo氏
ベトナム	Huynh Van Minh氏、Hoang Anh Tien氏
ミャンマー	Than Htay氏

### 2. 第4回国際留学生Young Investigator's Award アジアから日本に留学している若手研究者を対象に第70 回記念日本循環器学会総会・学術集會での発表

最優秀賞	李 龍虎氏	20万円
	(岐阜大学大学院医学研究科再生医科学循環病態学：中国)	
優秀賞	成 憲武氏	10万円
	(名古屋大学医学部循環器ゲノム応用診断学：中国)	
	権 相模氏	10万円
	(東海大学医学部基盤診療学系再生医療科学：中国)	
	Renan Sukmawan氏	10万円
	(川崎医科大学大学院生理系循環機能生理学：インドネシア)	
	梁 景岩氏	10万円
	(筑波大学人間総合科学研究科先端応用医学：中国)	

## ご支援ありがとうございます

### 当財団へのご寄付

次の方からご寄付を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2006年2月～2006年4月)

小松 晴茂 様	高知県高知市	30,000円
田北 幸治 様	東京都世田谷区	5,000,000円
田中 晃 様	愛知県一宮市	10,000円
他 匿名7名様		182,000円

### 当財団をご支援下さる方

本年度もご支援をいただいた方のご芳名を掲載します。  
(敬称略：2006年2月1日～2006年4月25日)

江頭 泰幸 佐野 清 田上 慶子  
他2名

## 日本心臓財団・バイエル薬品 海外留学助成20周年の集い

1987年秋、バイエル薬品株式会社より日本における利益を日本の社会に還元したいとの申し入れが河合忠一先生(当時、当財団常務理事)にあり、先生のご考案により当財団の事業の一環として循環器領域の少壮研究者に対する留学助成が始まりました。

第1回(1988年)助成より本年度で20周年を迎える留学助成を記念して、今までの受賞者ならびに選考委員の先生方をご招待して、4月22日(土)、東京プリンスホテルにて、「海外留学助成20周年の集い」が開催されました。

記念講演では、第3回(1989年)助成対象者として南カリフォルニア大学に留学された倉林正彦先生(群馬大学医学系研究科臓器病態内科学教授)より「米国留学で学んだこと」と題して、当時の留学時代の経験とその後の成果や日本と米国の科学を育む土壌の違い、留学時代の楽しい思い出などをお話しいただき、これから留学をする若き研究者たちにメッセージをいただいた。



倉林正彦先生



また、特別講演として、6名というもっとも多くの留学生を受け入れてくださったJames K Liao先生(ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院準教授)に、「Atherosclerosis: Emerging Science」と題し、動脈硬化の最近の知見についてお話しいただいた。

60名の参加者が集い、留学当時の思い出とともに交流を深めた。このような場をご提供いただき、また今後も助成を続けていくことをお約束いただいたバイエル薬品株式会社に深く感謝申し上げます。

## ●心臓財団からのお願い● ～ご寄付ならびに賛助会ご加入～

当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄付金ならびに賛助会費により支えられています。あなたのまわりの方にもぜひ呼びかけてください。

ご寄付はいくらでも受けさせていただいております。当財団は「特定公益増進法人」として認可を受けておりますので、税制上の優遇措置が講じられています。

賛助会は日本心臓財団の目的に賛同し、その働きを支援する方々、法人によって構成されています。賛助会費は、個人の場合、年額1万円、法人の場合は5万円でも何口でも差し支えありません。

ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

郵便振替口座 00140-3-173597  
宛て先 財団法人日本心臓財団